

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策Ⅱ-5-2 地域生活交通の確保
---------	-------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	交通対策課長 伊藤 宏	電話番号	0852-22-5898
----------	-------------	------	--------------

事務事業の名称	JR利用促進事業
目的	(1) 対象 JR線を利用する県民や観光客 (2) 意図 利用しやすいダイヤや運転本数の確保により、利用者の増加を図り、JR線の維持存続を図る
事業概要	山陰本線、木次線、三江線、山口線の活性化を図るため、各協議会等が実施する利用事業に対して支援を行う。

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	年間利用者数	年度					単位
			23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	
式・定義	県内JR各駅の年間乗車人員の合計	目標値		6,355	6,355	6,355	6,355	千人
		実績値	6,355	6,344	6,698	6,296		
		達成率		99.80	105.40	99.10		
式・定義	達成率	目標値		0.00	0.00	0.00		%
		実績値	0.00	0.00	0.00	0.00		
		達成率		0.00	0.00	0.00		

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	4,450	2,700
うち一般財源(千円)	4,450	2,700

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

各線区の年間乗車人数	<ul style="list-style-type: none"> 三江線 H25：約53,000人 H26：約56,000人 山口線 H25：約95,000人 H26：約106,000人
------------	---

6. 成果があったこと（改善されたこと）

豪雨災害により運転を見合わせていた三江線、山口線の運転が再開され、三江線、山口線については前年の利用実績を上回った。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
近年、JR西日本ではローカル線区の列車運転本数が削減されており、県内でも平成25年3月ダイヤ改正により、山口線で削減された。
- ②困っている状況が発生している「原因」
自家用車の普及や少子高齢化により、山陰本線、地方ローカル線とも利用者数は、年々減少している。
- ③原因を解消するための「課題」
平成25年度の豪雨災害により、運転を見合わせていた三江線、山口線は両線区とも利用者の減少が続いている線区であり、利用促進の一層の取り組みが必要である。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

三江線、山口線は、両線区とも利用者の減少が続いている線区であり、更なる利用促進に沿線自治体と協力して取り組む。特に、三江線について、県、沿線市町が一体となって、沿線地域のPR、魅力づくり、イベント開催、旅行商品造成などの観光キャンペーンに取り組んでいく。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）